

令和 7 年度法人本部事業報告書

本報告書は、令和 7 年度法人本部事業計画書（2025年3月承認）に基づき、同年度に実施した主な取組とその成果、及び今後の課題について、以下のとおり報告する。

事業運営の活性化について

（１）稼働率の達成状況（2025年度目標／実績値）

事業所名	目標	実績（年度平均）	達成率
特別養護老人ホーム情和園	90名	84.5名	93.9%
情和園ショートステイサービス	8名	5.4名	67.9%
情和園デイサービスセンター	36名	22.8名	63.3%
ハニカム青春塾	20名	17.0名	85.0%
情和園デイサービスセンターハッピー	10名	6.4名	64.0%
介護保険サービスセンター情和園	44件	29.1件	66.1%

稼働率は各事業所の努力にもかかわらずおしなべて低下傾向であり、一層の取り組み強化が必至である。利用登録者数の増加をいかに図るか、現状分析を踏まえて必要な措置を講ずる必要がある。詳細は、添付別紙「直近3年間の事業所別延べ利用人員対比表」に示している。

（２）高齢者を地域で支える体制の構築

施設事業部、在宅事業部とも地域に欠かせない社会資源として、ご利用者やご家族のニーズに応えるべくサービスの提供を行ってきた。独居高齢者や認知症高齢者に支援の手を差し伸べ、孤独・孤立対策に尽力してきた。

（３）介護予防の推進

特別養護老人ホームにおいては機能訓練科、通所介護においては専門職としての柔道整復師、健康運動指導者、看護師等を中心に心身機能の強化、充実に努めてきた。ご利用者やご家族からの評価が高く、さらにリハビリテーションを推進していかなければならない。

（４）介護テクノロジーの導入と業務効率化

令和 8 年度に介護ソフトの新バージョンへの移行、クラウド化を行うべく、システム業者や介護機器卸売会社と協議を重ね、準備を進めてきた。パッケージで介護ソフトとネットワーク構成を刷新する予定であり、これにより大幅な業務効率化が可能になると思われる。

（５）介護生産性向上推進委員会の活動継続

大分県主催の介護生産性向上推進研修を受講し、また、ケアプランデータ連携システムへの参画、介護情報基盤構築準備を進めるなど、主として情報分野での生産性向上に努めてきた。

（６）外国人介護人材の受け入れ環境整備

新たに、調理員として1名インドネシアからの技能実習生を受け入れた。新たに導入された育成就労法においては技能実習生の新規入国期限は令和 9 年 7 月 1 日とされている。逆算すると、新規入国申請期限は同年 4 月 1 日、採用面接期限は令和 9 年 1 月 31 日となる。計画的な対応が必至である。

（７）ハード面の改善

計画してきた非常用自家発電・給水設備整備は予定通り竣工し、一層の安全・安心対策を講ずることができた。その他、各事業所の設備改善や改修、修理対応を迅速に行ってきた。

（８）自然災害時の対応力強化

防災安全委員会が主宰し、消防計画やBCPによる研修および訓練を定期的に行い、万が一に備えて対応力の強化を図ってきた。今後もこの取り組みを維持、強化していく。

理事会並びに評議員会の開催

愛泉会の事業を計画的に推進し、民間社会福祉事業としての先駆性・独自性を発揮するとともに、公平・公正な法人運営がなされるよう下記の通り会議を開催した。

- | | | | |
|----|------|-----|--------------------------|
| 1) | 令和7年 | 5月 | 第1回理事会（決算報告、次期理事・監事選任案等） |
| 2) | 〃 | 6月 | 第1回評議員会（決算報告、次期理事・監事の選任） |
| 3) | 〃 | 〃 | 第2回理事会（理事長選定） |
| 4) | 〃 | 9月 | 第3回理事会（非常用自家発電設備整備工事一件等） |
| 5) | 〃 | 12月 | 第4回理事会・第2回評議員会（補正予算） |
| 6) | 令和8年 | 3月 | 第5回理事会・第3回評議員会（新年度予算案等） |

監事監査の実施

関係法に準拠した事業運営を行うため法人機能を検証することを目的に、次の通り監事による監査を実施した。

令和7年5月 決算監査

令和7年度事業所別の利用状況について

添付別紙「直近3年間の事業所別延べ利用人員対比表」を参照。全体を俯瞰した評価を併せて記載している。

専門委員会とその活動について

別紙の通り。

直近3年間の事業所別延べ利用人員対比表(令和5～令和7年度)

社会福祉法人愛泉会

事業所名	延べ利用人員 (人)			対前年度比	対前年度比伸 び率 (%)	
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	増 減 (人)		
特別養護老人ホーム	30,073	32,079	30,860	△ 1,219	特養＋短期	
短 期 入 所	1,687	2,223	1,983	△ 240	－4.3%	
通所1課(情和園デイ)	8,460	7,351	7,048	△ 303	－4.1%	
サテライト ハニカム青春塾	4,083	3,734	3,641	△ 93	－2.5%	
2課(ハッピー)	1,752	2,052	1,986	△ 66	－3.2%	
訪 問 看 護	91	－	－	－	－	
居宅介護支援	1,320	1,436	1,395	△ 41	－2.9%	
(合 計)	47,466	48,875	46,913	△ 1,962	－4.0%	
在宅介護支援センター						
緊急通報(登録者数)	4	4	2	△ 2	－50.0%	
お元気コール	58	53	27	△ 26	－49.1%	
(ハニカム青春塾)短縮型自費デイ (再掲)						
地区介護予防教室	(回数)	12	35	34	△ 1	－2.9%
	(人数)	79	202	197	△ 5	－2.5%
(合 計)	153	294	260	△ 34	－11.6%	

「評価と対策」

- 基幹施設である特別養護老人ホームでは、ご利用者の体調不良等により入退院が増加した。退所から次の入所までの空床発生を極力抑えるため、入所待機中のご利用者についてご家族と早期の連絡調整を図るとともに、関係の居宅介護支援事業所と情報共有に努めたが、短期入所ご利用者の減少とともに合わせて約4%の利用者減となった。
短期入所については、延べ利用者数の減少はあったが、約7割(68%)の稼働率は維持している。挽回を図るとともに、相乗効果もあることから、新年度にショートステイの舵取り役を担う生活相談員を1名新規に配属した。
- 一般型デイサービスである情和園デイサービスセンターは、トライアル利用や新規利用者数は増加したものの、全体としては約4%の利用者減であった。複数日利用者の入院や短期入所利用が原因と考えられる。今後は登録者数の増加対策が鍵となると思われる。
- ハニカム青春塾は、自宅でも運動ができるセルフトレーニングを薦めるなど身体機能の強化・維持につとめた。2.5%の微減であったが、職員の感染症罹患による休業の影響が関係していると思われる。
- 認知症対応型デイサービスハッピーは、登録抹消者が新規利用者数を超える状態で、登録者数を増やすに至らず、結果として約3%の減少であった。認知症の進行による在宅生活継続の障壁が高くなっていることが要因と思われるが、広報活動等の強化が必要である。
- 居宅介護支援事業所は、新規契約者数が支援終了者を超えているものの、延べ利用者数は約3%の減少であった。地域全体が高齢化し、また利用できる社会資源が減少する等、在宅生活の継続は年を追うごとに困難になってきているが、地域には由布市社会福祉協議会と情和園にのみケアプランセンターが置かれている現状があり、引き続き地域福祉の護り手として努力を重ねる必要がある。